「どうしました？」～診察室から～

第17回

自己血輸血って、どんな輸血？

検査科に聞きました

手術の際に行われる輸血。以前は、献血などによって集められた他人の血を輸血するのが一般的でしたが、近年、自己血輸血（じこけつゆけつ）という方法が増えてきています。どのような輸血なのか、検査科に聞いてみました。

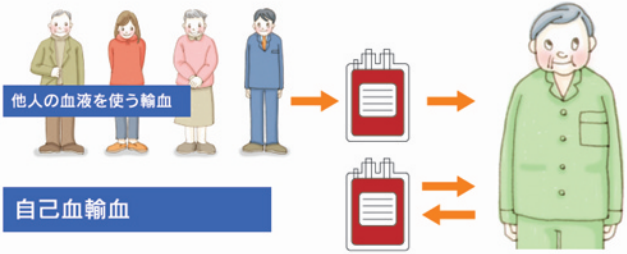
準備しておいた自分自身の血液を輸血

自己血輸血とは読んで字のごとく、手術中に輸血が必要になった場合、あらかじめ採血しておいた自分の血液を輸血する方法です。自分の血を輸血するのですから、血液型などの不適合や感染症などの心配がありません。より安全性の高い方法として、日本でも広く用いられるようになってきました。友愛記念病院でも、条件に合う患者さんには、自己血輸血をお勧めしています。

条件の合う手術および状態にのみ適用

自己血輸血は、いつでも誰にでも使えるわけではありません。適用するには、手術の種類や患者さんの状況に条件があります。まず、自己血を準備しておく必要があるのは、輸血の可能性がある手術です。また、事前に準備が必要なため急を要する手術には用いることができません。さらに、患者さんの状態も良く、自己血輸血について理解と協力を得られた場合に限られます。

数週前から準備し、当日まで冷蔵保存

輸血に用いる血液は、手術日の2～3週間前から少しずつ数回に分けて採血します。採血の方法は、献血する時と同じです。採血した血液は、患者さんの名前を書いたパックに入れて、専用の保冷庫で当日まで冷蔵保存されます。なお、血液を保存しておける期間には、限りがあります。将来の手術の可能性に備えて、血液を長期保存することはできません。ちなみに、使わなかった血液は、術後速やかに適切な方法で処分されます。

患者さんから採血した血液が保管される専用保冷庫